

発行にあたって

現在、わが国では、経済の再生に向けて、各分野においてはさまざまな改革が進められているところであり、そこではプロのエコノミストの活躍が必要不可欠とされ、ひいては人材の育成がますます重要なものとなっています。

経済学はきわめて専門性の高い学問であり、現実の経済政策にも活用されています。しかし、経済学を学ぶ者にとって学習した成果を測る目安がなく、従来より、その習得度を客観的に評価してほしいという各方面からの強い要望も数多くありました。

「E R E」は、主として各大学の経済学部その他社会科学系学部の学生を対象に、経済学の数理的・理論的な基礎知識の習得程度と実体経済での初歩的な応用能力のレベルを全国規模で判定する経済学検定試験であり、「学習した理解度を客観的に評価してほしい」との声に呼応して日本経済学教育協会が2002年3月から実施しているものです。以来、大学の学部を問わず、また、官民を問わず、大学生や社会人に広く活用されております。

本書は、2017年7月～2018年12月に出題された過去4回分の「E R E」の試験問題とその解答を収録したものです。

本書の効果的利用によって、「E R E」にチャレンジされ、経済学の知識をより一層深められることを願ってやみません。

2019年2月

経済法令研究会

Contents

発行にあたって …… i

E R E (経済学検定試験) のあらし …… x

受験者の声 …… 293

2017年7月〈第32回〉



ミクロ経済学

需要の価格弾力性…2/従量税の税収…2/無差別曲線…4/最適消費…5/支出割合の変化…5/レオンチェフ型効用関数…7/所得消費曲線…9/労働供給…10/利潤最大化…11・15/定額税の効果…12/操業停止価格…13/短期均衡と長期均衡…14/不完全競争…16/屈折需要曲線…16/複占…18/費用逡減産業…18/2期間の消費の最適化…19/独占の利潤…20/ナッシュ均衡…21/展開型ゲーム理論…22/不確実性と情報…23/情報の経済学…24/外部経済と外部不経済…25/厚生基準…26



マクロ経済学

国内総生産…28・28・28/GDPデフレーター…29/45度線モデル…30/オイラー方程式…30/ソロー経済成長モデルにおける貯蓄率…31/投資の調整費用関数…32/トービンの q …33/IS-LMモデル下の金融財政政策…33/非伝統的金融政策…34/実物的景気循環モデル…34/リカードの等価命題…35/貨幣需要…36/貨幣供給…36・37/乗数理論…37/インフレーション…38/IS-LM分析…38/成長会計…39/ソロー経済成長モデル…40/内生的経済成長論…41/AD曲線…41/貨幣数量説…42/マンデル=フレミング・モデル…43



財政学

公共財…45/課税の公平性・中立性…46/課税の超過負担…47/公債の負担…47/財政運営…48/公的年金の存在理由…48/日本の予算制度…49/地方財政…50/社会選択…50/財政支出乗数と減税乗数…51

Contents



日本の資金循環…52／日本の金融市場…53／直接金融と間接金融…53
／情報の非対称性と金融取引…54／資本資産価格モデル…55／コンソ
ル債…55／日本における貨幣の定義…56／為替相場と為替予約…56／
貨幣乗数…57／為替制度と金融政策…57



国際収支表…59／日本の経済連携協定…59／購買力平価…60／先渡し
為替レート…61／労働の国際移動…61／リカード・モデル…62／関税
と国内税政策…63／貿易と経済成長…65／開放マクロ経済学…66／外
国の独占企業に対する関税…66



確率…68・68／分散…69／確率変数…69／不偏推定値…70／確率変数
…70／F分布…71／最小二乗法…72・73・74

2017年12月 〈第33回〉



ミクロ経済学

需要の価格弾力性…76／課税による厚生損失…76／均衡の安定性…77
／財の消費と所得…78／消費の双対性…79／ギッフェン財の性質…80
／労働と余暇の合理的選択…81／顕示選好の弱公準…82／長期の供給
…83／生産関数の形状…84／費用関数…84／完全競争市場での利潤最
大化…85／パレート最適…86／独占…87／複数市場…87／ラーナーの
独占度…88／シュタッケルベルク均衡…89／価格競争…90／展開型ゲ
ーム…91／市場の失敗…92／公共財…93／外部不経済…93／外部経済
…94／情報の非対称性…95／不確実性…96



マクロ経済学

国内総生産・国民所得の概念…98／国内総生産・名目と実質…98／財
政政策の効果…99／消費と貯蓄の理論・ライフサイクル仮説…100／
消費と貯蓄の理論・恒常所得仮説…100／消費と貯蓄の理論・最適消
費水準決定の2期モデル…101／投資理論・投資の限界効率…101／投
資理論・トービンの q 理論…102／マクロ投資理論…102／ $IS-LM$ モ
デルにおける経済政策の有効性…103／経済政策の有効性・ケインズ
的総需要管理政策への批判…104／財政金融政策の有効性…105／消費
関数…106／貨幣の機能…106／貨幣乗数…107／ポーモル＝トービン
・モデル…107／ $AD-AS$ モデル…108／インフレーションの形態…
109／インフレのコスト…109／労働需要関数…110／失業と求人…110
／ソロー成長モデル…111・112／成長会計…111／ラムゼーモデル…
112



財政学

予算制度…114／財政運営…114／課税の効率性…115／課税の公平性
…116／公共財…116／社会保障…117／地方財政…117／公共選択…
118／課税の効率性…119／地方財政…120

Contents



銀行の機能…121／最適な資産選択…121／金利の期間構造…122／企業の資金調達…123／コーポレート・ガバナンス…124／金融危機…124／日本の資金循環の特徴…125／金融マクロ理論…125／中央銀行の資産と負債…126／外国為替相場…127



購買力平価…128／カバーなし金利平価…128／最近の為替レートの動向…129／国際通貨…130／比較優位…131／余剰分析：関税の効果…132／独占市場の輸入規制…133／ASEAN経済共同体（AEC）…134／ヘクシャー＝オリーンの貿易モデル…134／マンデル＝フレミング・モデル…136



2項分布…137／確率…137／平均・分散…138／正規分布…139／カイ二乗分布…140／推定…140／相関係数…141／最小二乗法…142／内生変数・外生変数・先決変数…142・143

2018年7月〈第34回〉

ミクロ経済学

需要曲線、供給曲線のシフト…146／くもの巣理論の安定性…147／消費者の効用最大化…148／完全代替財…148／無差別曲線と最適消費…150／需要の所得弾力性…151／交差弾力性…152／レオンチェフ型効用関数における支出額…153／費用関数…154／平均費用曲線…155／長期費用曲線…156／長期の企業数…156／エッジワースボックス…157／効用フロンティア…159／パレート最適性…160／独占…161／不完全競争市場…162／外部経済…162／外部不経済…163／ナッシュ均衡…165／展開型ゲーム…165／情報の非対称性…167／割引現在価値…167／異時点間の消費…168／コースの定理…169

マクロ経済学

国内総生産と国民総所得…171／トービンの q …171／ケインズ型消費関数…172／物価の変動と債務負担…172／資本の使用者費用…173／GDPデフレーター…174／年率換算GDP…174／マクロ統計…175／投資について…176／産業連関表…176／消費性向…177／投資の調整費用…178／財政政策…179／2期間モデルとマクロの貯蓄率…179／45度線モデル…180／IS-LMモデルと経済政策の効果…181／IS-LMモデルの計算問題…181／流動性の罫…182／実質利子率と名目利子率…182／流動性の罫の下での経済政策…183／テイラー・ルール…184／フィリップス曲線…184／ソロー経済成長モデルの基礎…185／ソロー経済成長モデルの応用…185／ラムゼーモデル…186

財政学

財政の3機能…188／公共財…188／課税に伴う超過負担…189／財政政策の効果…190／公債の経済効果…191／財政運営…191／予算制度…192／地方財政…193／公的年金制度…194／政府の失敗…195

Contents



金融機関の機能…196 / モディリアーニ＝ミラー定理…196 / 情報の非対称性と銀行貸出…197 / 為替予約…197 / 貨幣乗数…198 / 株式のファンダメンタルズ価格…199 / 期待効用とリスク・プレミアム…199 / 自己資本比率規制…200 / マンデル＝フレミング・モデル…201 / 総需要・総供給 ($AD-AS$) モデルにおける金融政策…202



購買力平価…203 / 金利平価…203 / 国際収支表…204 / アウトソーシング…205 / 国際金融のトリレンマ…205 / F T A…206 / 小国の関税政策…207 / 国際マクロ経済…207 / リカード・モデル…208 / IS バランスと経常収支…209



標準偏差…211 / 確率…212 / 正規分布…212・214 / 平均…213 / 仮説検定…214 / F 分布…215 / 最小二乗法…216 / ダミー変数…216 / 構造方程式と誘導形…217

2018年12月〈第35回〉

ミクロ経済学

均衡の安定性…220/エンゲル曲線…220/代替財、補完財…222/無差別曲線…223/需要の価格弾力性…224/補助金による厚生損失…224/需要・供給曲線の集計…226/間接効用関数…226/完全競争市場…227/完全競争市場での利潤最大化…228/長期費用関数…229/損益分岐点…229/価格規制…230/独占…230・232/屈折需要曲線…231/複占…233/効用可能性フロンティア…235/契約曲線…236/情報の経済学…237/条件付き財の無差別曲線…237/ナッシュ均衡…238/汚染の排出権市場…239/相対的危険回避度一定の効用関数と絶対的危険回避度一定の効用関数…241/生産の外部経済…241

マクロ経済学

国内総生産…243/フローとストック…243/物価指数…243/失業率…244/ケインズ型消費関数…245/ライフサイクル仮説…246/投資理論…246/マクロ生産関数…247/財政政策の政策ラグ…248/実質利子率と名目利子率…248/IS-LMモデル…249/AD-ASモデル…249/貨幣需要…250/貨幣供給…251/IS-LMモデルにおける貨幣…252/失業…252・253/フィリップス曲線…253/インフレーション…254/金融マクロ理論…255/マンデル=フレミング・モデル…255/新古典派経済成長理論…256/経済成長理論…257・257/資本蓄積の黄金律…258

財政学

予算制度…260/財政政策の効果…260/財政運営…261/公債…262/課税の効率性…262/課税の公平性…263/公共財…264/社会保障…265/地方財政…265/公共選択…266

Contents



市場型間接金融…268／銀行の情報生産機能…268／家計の貯蓄行動…
269／株式の収益率…269／資産選択…270／インフレーションとデフ
レーション…271／過剰債務問題…271／日本の資金循環の特徴…272
／金利の期間構造…272／金融技術…273



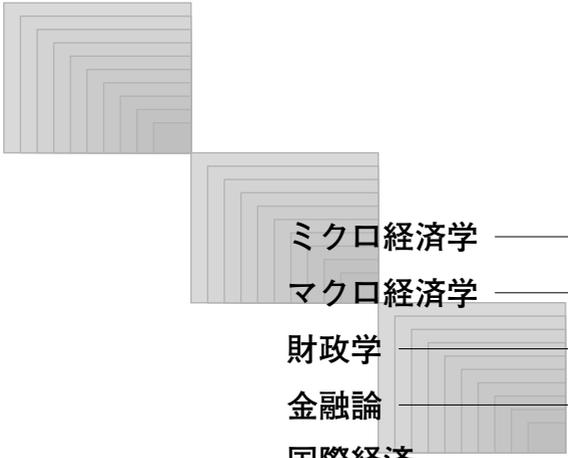
国際収支表…275／交易条件…275／小国の輸入関税…276／先渡し為
替レート…277／購買力平価…277／比較優位の理論…278／最適関税
率…279／国内独占と輸入中間財への関税…280／マーシャル＝ラーナ
ー条件…281／海外直接投資…282



確率…284・284／確率変数…285・286／不偏推定値…286／帰無仮説
…287／F分布…288／最小二乗法…289・290・290

2017年7月〈第32回〉

ERE試験問題・解答



ミクロ経済学	2
マクロ経済学	28
財政学	45
金融論	52
国際経済	59
統計学	68

ミクロ経済学

問 1 . 需要の価格弾力性

需要曲線が $D = \frac{1}{p^2}$ で与えられている。ここで D は需要量、 p は価格である。 $p = 1$ であるとき、需要の価格弾力性はいくらになるか。

- (1) $\frac{1}{2}$
- (2) 1
- (3) 2
- (4) 4

需要の価格弾力性 ε は、

$$\varepsilon = -\frac{\partial D}{\partial p} \frac{p}{D} \dots\dots \textcircled{1}$$

である。問題文の式より、 $\frac{\partial D}{\partial p} = -\frac{2}{p^3}$ であり、これに $p = 1$ を代入すると、 $\frac{\partial D}{\partial p} = -2$ である。また、 $p = 1$ のとき $D = 1$ である。これらを①式に代入すると、 $\varepsilon = 2$ である。

したがって、正解は(3)である。

解 答 (3)

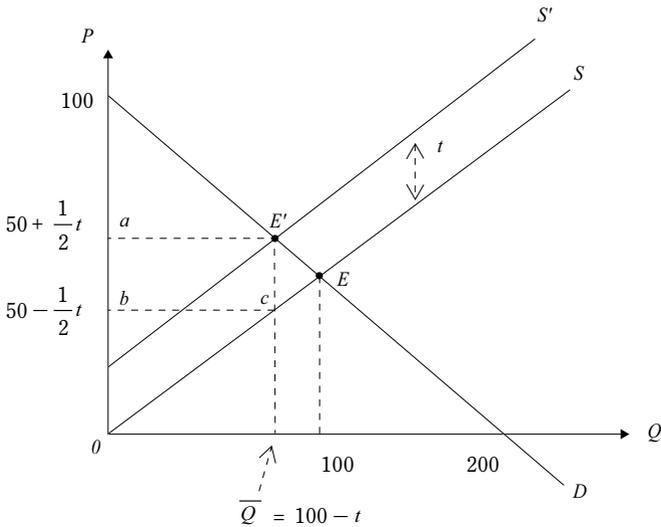
問 2 . 従量税の税収

ある財の需要曲線が $D = 200 - 2P$ 、供給曲線が $S = 2P$ で与えられている。ただし、 D は需要量、 S は供給量、 P は価格である。この財に 1 単位当たり t の従量税を課すとする。このとき、税収を最大化するためには、従量税の値 t をいくらにすればよいか。

- (1) 20

- (2) 30
- (3) 40
- (4) 50

財の取引量を Q とすると、従量税課税後の供給曲線は $P = \frac{1}{2}Q + t$ である。需要曲線を D 、課税前の供給曲線を S 、課税後の供給曲線を S' とすると、これらの関係は下図のようになる。



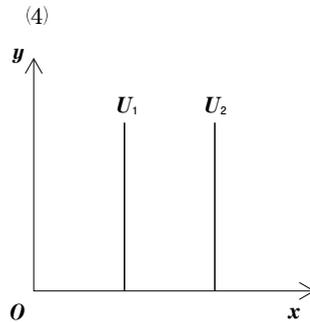
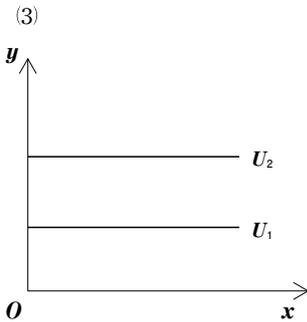
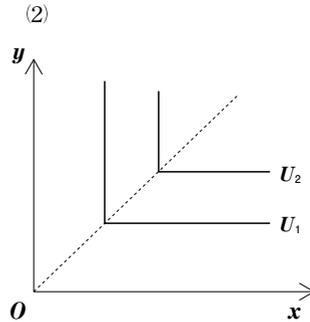
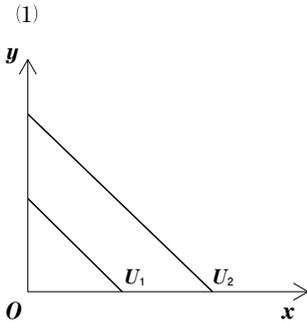
課税前の市場均衡は E 点、課税後の市場均衡は E' 点となり、税収は四角形 $abcE'$ の面積に等しい。課税後取引される財の量を \bar{Q} とすると、需要曲線と課税後の供給曲線より、 $\bar{Q} = 100 - t$ である。ゆえに、税収 T は、 $T = t \times \bar{Q} = t \times (100 - t) = 100t - t^2$ である。税収を最大にする従量税を求めるためには、 t について T を最大化すればよい。 $\frac{\partial T}{\partial t} = 100 - 2t = 0$ であるので、 $t = 50$ のとき T が最大化される。

したがって、正解は(4)である。

解答 (4)

問3. 無差別曲線

2種類の財、 x 財と y 財が存在する経済において、ある消費者は x 財の消費から効用を得るが、 y 財の消費からは効用も不効用も得られないという。この消費者の無差別曲線の図として、正しいものはどれか。ただし、 U_1 よりも U_2 の方が効用水準が高いとする。



(1)は2財が完全代替のケース、(2)は2財が完全補完のケースである。(3)は x 財の消費量にかかわらず、 y 財の消費が増えると効用水準が高くなる。逆に、(4)は y 財の消費量にかかわらず、 x 財の消費が増えると効用水準が高くなる。

したがって、(4)が正しい。

解答 (4)

E R E [経済学検定試験] 問題集 2019年7月受験用

2019年3月25日 第1刷発行

編 者 経済法令研究会

発行者 金子 幸 司

発行所 (株)経済法令研究会

〒162-8421 東京都新宿区市谷本村町3-21

電話 03(3267)4811代

<https://www.khk.co.jp/>

営業所／東京03(3267)4812 大阪06(6261)2911 名古屋052(332)3511 福岡092(411)0805

印刷・製本／日本ハイコム(株)

©Keizai-hourei Kenkyukai 2019 Printed in Japan

ISBN978-4-7668-7016-9

☆ 本書の内容等に関する訂正等の情報 ☆

本書の内容等につき発行後に訂正等（誤記の修正等）の必要が生じた場合には、当社ホームページに掲載いたします。

（ホームページ [書籍・DVD・定期刊行誌](#) の下部の [追補・正誤表](#)）

定価は表紙に表示してあります。無断複製・転用等を禁じます。落丁・乱丁本はお取替えます。